

常用漢字考

矢澤秀昭

はじめに

漢字がいつ誕生したのかはわからない。紀元前3000年頃、皇帝伏羲が易の八卦を発明し、前2700年頃、黄帝の臣で史官の蒼頡（倉頡）がそれをもとにして文字を作ったという。また、蒼頡は鳥の足跡を見て文字を作ったともいわれている。もちろんこの文字誕生説は、伝説に過ぎない。文字は個人の発明によるものではない¹⁾。

確認できる中国最古の文字は、殷王朝（およそ前17世紀～前11世紀頃）で作られたものである。殷王朝では、国家の重要な行事をト占（うらない）によって決定していた。ト占には亀の甲羅や牛骨などが用いられた。これらを焼くことによって表面にひび割れが生じ、その割れ目の形で吉凶を占った。事前に占う事柄、またその結果や王の下した判断なども甲羅や牛骨に刻みつけられた。文字が刻まれた材料からこの文字を甲骨文字（甲骨文、亀甲獣骨文字とも）という。また、殷王朝の遺跡から発見されたので殷墟文字ともいう。現在では甲骨文字が、遡ることができる最も古い漢字の祖先とされている。

甲骨文字が漢字の祖先であっても、その形は普段見慣れてるものとは大きく異なる。漢字は時代により形を変化させ現代に到っている。字体の変遷を以下に外観してみる²⁾。



甲骨文字



金文

時代的には甲骨文字と同じかやや後である。青銅器に刻まれたので金文という。形に関しては基本的には甲骨文字と大差はない。殷王朝時代のものを殷金文、周王朝から戦国時代のものを周金文という。



大篆

秦の始皇帝が文字を統一する以前のもの。籀文ともいう。周の宣王の時代に太史籀という史官が作ったということに由来するが、事実とは考えられていない。



小篆

秦が天下を統一したとき、それまで地方でばらばらであった度量衡の統一とともに、字体の統一もなされた。そこで制定された字体が小篆である。



隸書

小篆が制定されたときに、一方で隸書が作られた。小篆は形が煩雑であり書写に時間を要した。そこで書写しやすい形として隸書が案出された。漢の時代は隸書の全盛であった。



楷書・行書・草書

隸書が発展して楷書、行書、草書へと進んだと考えられる。発生の順序は、草書が前漢の木簡に見られ、後漢末に楷書が生まれた。行書は後漢の劉德昇が作ったとされる。

马 簡体字

1956年「漢字簡化方案」が公布され、現在中国では刊行される新聞、雑誌、書籍はすべてこの字体が用いられている。

漢字は、3～4世紀頃『千字文』、『論語』とともに日本に伝えられたという説がある。しかし、『千字文』は6世紀初頭、周興嗣が作ったとされているのでこの説には矛盾が生じる³⁾。朝鮮半島との交流が盛んになった4世紀頃から本格的に渡来人によって漢字が移入されるようになった⁴⁾。日本にいつ漢字が入ってきたのかを明確に特定することはできない。

5世紀になると、日本で日本のことを書いた資料の存在が確認できる。和歌山県の隅田八幡宮の鏡の銘文、埼玉県の新田山古墳や熊本県の江田山古墳から出土した鉄剣などである。日本人の漢字使用はこの頃からであろう。それ以前は中国の『三国志・魏書・東夷伝』の中に「卑弥呼」など3世紀頃の日本のことを記述した例はあるが、これは日本人の漢字使用ではない。

長い年月を経て、漢字はその形を変化させてきた。現在、中国では「簡体字」が普及し、日本では日本独自に簡略化した「略字」が用いられている。日本において「簡体字」を取り入れようという動きはない。

漢字は「形」（字体）、「音」（読み方）、「義」（意味）の三要素から成り立っている。「簡体字」と「略字」を比較し（中国には存在しない「笹」や「峠」などの「国字」は除外）、特に「形」の相違を常用漢字を中心に論じる（ここでは平成22年6月7日答申の改定常用漢字2136字を対象とした）。

常用漢字と簡体字

後漢の許慎によって『説文解字』が著され、部首を設け漢字を分類、整理した。清の康熙帝の勅命により『康熙字典』が編まれ、さらに部首等は整理された。日本の多くの漢和辞典もこれをほぼ踏襲している。

漢字の字体は、同一の字であってもそれが一つとは限らない。同一の字でありながら異なる字体が存在するものを「異体字」という。唐代の顔元孫の『干禄字書』では800字余りを「通字」、「俗字」、「正字」に弁別し字体の整理を行っている。

干禄字書通字、俗字、正字例⁵⁾

通字	俗字	正字
兒	兒	貌
尔尔		爾
	兒	兒
鬪	鬪	鬪

規範とされる字体が「正字」である。『康熙字典』（およそ49000字収録）は部首の規範となっているほか、また字体の規範ともなっている。

常用漢字、簡体字ともに一、乙、上など筆画の少ない字は異体字がほとんどない。また、「国」（正字は「國」）のように常用漢字と簡体字で同じ形になっているものもある。ここでは常用漢字と簡体字で同一文字で異形のを対象とした。以下にその例を挙げる。（簡体字では、紙（紙）等糸偏は「纟」、飯（飯）等食偏は「饣」、語（語）等言偏は「讠」、骂（罵）等馬は「马」、鉄（鋼）等金偏は「钅」、貴（貴）等貝は「贝」、視（視）等見は「见」、较（較）等車は「车」、间（間）等門（門も含む）

は「門」のように、それを部首として有する漢字は共通して簡略化している。こうした部首のみの相違の場合は除外した。また、「围 *伟违纬韩」のように、簡体字において同一の部首が同一の簡略化をしている場合は、*の後に例を配置し、常用漢字の例は割愛した)

	正字	常用漢字	簡体字
1	亞	亜	亚 *恶
2	愛	愛	爱
3	壓	压	压
4	圍	围	围 *伟违纬韩
5	爲	为	为
6	陰	陰	阴
7	韻	韻	韵
8	鬱	鬱	郁
9	雲	雲	云
10	榮	荣	荣
11	營	营	营
12	衛	衛	卫
13	驛	駅	驿 *择泽译释
14	圓	円	圆
15	園	園	园 *远
16	鹽	塩	盐
17	艷	艷	艳
18	櫻	桜	樱
19	應	応	应
20	億	億	亿 *忆
21	虞	虞	虞

22	穩	穩	稳
23	價	価	价
24	渦	渦	涡 *祸
25	過	過	过
26	靴	靴	靴 *化花
27	畫	画	画
28	拐	拐	拐
29	海	海	海 *梅每侮
30	開	開	开
31	塊	塊	块
32	壞	壞	坏 *怀
33	害	害	害 *辖
34	角	角	角
35	擴	拡	扩
36	確	確	确
37	獲	獲	获
38	樂	楽	乐
39	滑	滑	滑 *骨
40	罐	缶	罐
41	卷	卷	卷 *圈
42	陷	陷	陷
43	換	換	换
44	敢	敢	敢
45	勸	勧	劝 *杈欢观
46	漢	漢	汉
47	關	関	关
48	監	監	监

49	還	還	还 *环
50	艦	艦	舰
51	鑑	鑑	鉴
52	氣	氣	气
53	龜	龜	龟
54	幾	幾	几
55	毀	毀	毁
56	器	器	器
57	機	機	机
58	偽	偽	伪 *为
59	義	義	义 *议仪
60	戲	戲	戏
61	擬	擬	拟
62	犧	犧	牺
63	喫	喫	吃
64	宮	宮	宫
65	窮	窮	穷
66	據	拠	据
67	舉	举	举
68	魚	魚	鱼 *鯨
69	協	協	协
70	強	強	强
71	鄉	鄉	乡
72	橋	橋	桥 *矫
73	響	響	响
74	驚	驚	惊
75	曉	曉	晓

76	業	業	业
77	極	極	极
78	勳	勳	勋
79	薰	薰	薰
80	徑	徑	径 *经劲茎轻
81	惠	惠	惠
82	啓	啓	启
83	溪	溪	溪
84	螢	螢	萤
85	慶	慶	庆
86	鷄	鷄	鸡
87	藝	芸	艺
88	劇	劇	剧
89	缺	欠	缺
90	傑	傑	杰
91	潔	潔	洁
92	縣	梟	县 *悬
93	儉	儉	俭 *险剑检验
94	憲	憲	宪
95	繭	繭	茧
96	顯	顯	显
97	嚴	嚴	严
98	吳	吳	吴 *娱误
99	後	後	后
100	護	護	护
101	廣	廣	广
102	港	港	港

103	溝	溝	沟 *构购
104	綱	綱	纲 *钢刚
105	興	興	兴
106	講	講	讲
107	黑	黒	黑 *默墨
108	穀	穀	谷
109	墾	墾	垦 *恳
110	查	查	查
111	差	差	差
112	災	災	灾
113	碎	碎	碎 *粹醉
114	濟	濟	济 *剂齐
115	齋	齋	斋
116	歲	歲	岁
117	際	際	际
118	柵	柵	柵 *册
119	殺	殺	杀
120	雜	雜	杂
121	棧	棧	栈 *残钱践浅笺
122	產	産	产
123	傘	傘	伞
124	絲	糸	丝
125	師	師	师 *帅
126	齒	齒	齿
127	摯	摯	挚 *执
128	兒	兒	儿
129	璽	璽	玺 *弥

130	識	識	识 *职
131	質	質	质
132	實	实	实
133	寫	写	写
134	舍	舍	舍 (捨と同形)
135	腫	腫	肿 *种钟
136	樹	樹	树
137	收	収	收
138	習	習	习
139	衆	衆	众
140	醜	醜	丑
141	襲	襲	袭 *龙泐笮
142	從	從	从 *纵
143	獸	獸	兽
144	澀	渋	涩
145	肅	肅	肃
146	術	術	术
147	處	処	处
148	書	書	书
149	昇	昇	升
150	將	将	将
151	稱	称	称
152	涉	涉	涉 *步频
153	勝	勝	胜
154	燒	燒	烧
155	傷	傷	伤
156	獎	獎	奖

157	衝	衝	冲
158	鐘	鐘	钟
159	乘	乘	乘 *剩
160	場	場	场 *肠 扬 疡
161	疊	疊	叠
162	繩	繩	绳
163	壤	壤	壤
164	孃	孃	娘
165	讓	讓	让
166	釀	釀	酿
167	植	植	植 *直 值 殖 置
168	識	識	识
169	眞	真	真 *慎 鎮 填
170	進	進	进
171	親	親	亲
172	尋	尋	寻
173	腎	腎	肾
174	圖	囙	图
175	穗	穗	穗
176	勢	勢	势 *热
177	隻	隻	只
178	聖	聖	圣
179	攝	摂	摄
180	節	節	节
181	專	專	专
182	戰	戰	战
183	遷	遷	迁

184	選	選	选
185	薦	薦	荐
186	織	織	纤
187	禪	禪	禅 *单弹
188	礎	礎	础
189	搜	搜	搜
190	插	插	插
191	掃	掃	扫
192	曾	曾	曾 *僧增憎贈
193	窗	窓	窗
194	瘦	瘦	瘦
195	層	層	层
196	總	総	总
197	倉	倉	仓
198	藏	藏	藏
199	臟	臟	脏
200	續	続	续
201	孫	孫	孙 *逊
202	對	对	对
203	帶	带	带 *滯
204	隊	隊	队 *坠
205	態	態	态
206	濁	濁	浊
207	達	達	达
208	奪	奪	夺
209	嘆	嘆	叹
210	團	团	团

211	壇	壇	坛
212	恥	恥	耻
213	遲	遲	迟
214	築	築	筑
215	着	着	着
216	廳	厅	厅
217	長	長	长 *张帐
218	鳥	鳥	鸟 *鸣鹤
219	徵	徵	征 *惩
220	敕	勅	敕
221	陳	陳	陈 *东冻栋
222	遞	遞	递
223	敵	敵	敌
224	徹	徹	彻
225	轉	轉	转 *传
226	電	電	电
227	塗	塗	涂
228	島	島	岛
229	湯	湯	汤
230	稻	稻	稻
231	頭	頭	头
232	膽	膽	眷
233	鬪	鬪	斗
234	動	動	动
235	導	導	导
236	德	德	德
237	讀	讀	读 *卖

238	突	突	突
239	曇	曇	曇
240	鍋	鍋	锅
241	難	難	难
242	忍	忍	忍
243	認	認	认
244	寧	寧	宁
245	惱	惱	恼 *脑
246	農	農	农 *浓
247	霸	霸	霸
248	廢	廢	废 *(髮も发と同形)
249	買	買	买
250	博	博	博 *薄縛
251	拔	拔	拔
252	反	反	反 *版板坂阪飯返販
253	卑	卑	卑 *碑
254	飛	飛	飞
255	罷	罷	罢
256	備	備	备
257	筆	筆	笔
258	姬	姬	姬
259	冰	氷	冰
260	濱	浜	滨 *宾
261	膚	膚	肤
262	風	風	风
263	復	復	复 (複も同形)
264	拂	払	拂 *佛

265	墳	墳	坟
266	奮	奮	奋
267	幣	幣	币
268	別	別	别
269	邊	辺	边
270	變	変	变
271	補	補	补
272	包	包	包 *抱 炮 炮 炮
273	報	報	报
274	豐	豊	丰
275	僕	僕	仆
276	撲	撲	扑
277	滿	満	满
278	脈	脈	脉
279	務	務	务 *雾
280	無	無	无
281	夢	夢	梦
282	滅	滅	灭
283	麵	麵	面
284	網	網	网
285	藥	薬	药
286	躍	躍	跃
287	闇	闇	暗
288	癒	癒	愈
289	郵	郵	邮
290	憂	憂	忧 *优
291	與	与	与

292	豫	予	豫
293	葉	葉	叶
294	陽	陽	阳
295	樣	樣	样
296	窯	窯	窑
297	養	養	养
298	擁	擁	拥
299	謠	謠	谣
300	羅	羅	罗
301	覽	覽	览
302	濫	濫	滥 *蓝
303	欄	欄	栏
304	裏	裏	里
305	陸	陸	陆
306	慄	慄	栗
307	隆	隆	隆
308	侶	侶	侣 *吕
309	虜	虜	虏
310	慮	慮	虑
311	兩	兩	两
312	涼	涼	凉
313	獵	獵	猎
314	療	療	疗
315	瞭	瞭	了
316	糧	糧	粮
317	倫	倫	伦 *论轮
318	隣	隣	邻

319	臨	臨	临
320	璫	瑠	琉
321	淚	淚	泪
322	壘	壘	垒
323	類	類	类
324	戾	戾	戾
325	靈	靈	灵
326	隸	隸	隶
327	齡	齡	龄
328	麗	麗	丽
329	歷	歷	历（曆も同形）
330	練	練	练*炼（鍊）
331	勞	勞	劳
332	錄	錄	录
333	脇	脇	胁

以上、約 22 パーセントが常用漢字と簡体字では字体が異なる。

かつて朝鮮半島やベトナムなどにも漢字は伝播し使用された。しかし、現在「漢字文化圏」の地域で漢字を日常的に使用しているのは、漢字母国の中国（華僑が多く居住するシンガポールやマレーシアを除く）以外には日本だけである。その日本においても多くの漢字は独自の「形」を有するようになったのである。

常用漢字の字体

昭和 24 年 4 月に「当用漢字字体表」が発表され、標準となる字体が提示された。昭和 56 年 10 月に「常用漢字表」が告示され、当用漢字が常用

漢字に換わり、平成22年6月に常用漢字改定の答申があった。字体は当用漢字をほぼ踏襲している。

常用漢字（当用漢字）の簡略化の方法は以下のように分けることができる。

広く筆記体（手書き）などで略されていた漢字を正式なものとした字体。「亜」、「為」、「楽」、「関」、「亀」、「拳」、「広」、「黒」、「雑」、「実」、「乗」、「縄」、「帯」、「発」、「姫」など多くはこの例である。また、「しんにょう」の「辶」を「辵」（「逄」は使用頻度が低いため「辶」のままである）、「くさかんむり」の「艹」を「艹」など、同じ部首を統一して略したものもこの例である。「駅、扱、沢、釈」、「海、毎」、「壊、懐」、「扱、広」、「勧、権、観、歓」、「還、環」、「為、偽」、「義、議、儀」、「径、経、軽」、「県、懸」、「険、検、験、剣」、「黒、黙、墨」、「碎、酔」、「済、剤、斉」、「真、慎、鎮」、「曾、僧、増、贈」、「読、売」、「博、薄、簿、縛」、などである。「青、清、晴」などの「月」は本来「冂」であるが、筆記体では「月」と書かれていたのでこれらの字は共通してこの部分を「月」とした。しかし画数は変わらないので「簡略化」という点ではその効果はない。なお、簡体字も同様にこれらの例は「月」としている。

行書体または草書体を楷書化した字体。

「囟」、「昼」などである。簡体字の「乐」、「讠」や「传」の「专」などもそうである。前述の「観」の「囗」などはこの例でもある。「門」（門）も行書に由来しているが、正式な字体にはなっていない。簡体字の「門」は正式な字体である。

形声文字において音符を換えた字体。

漢字の大半は形声文字である（「河」の「氵」は「水」の概念を表している。この部分を「意符」と言い、「可」は「カ」という読み方を表している。この部分を「音符」と言う）。複雑な形の音符の形声文字の部首を、比較的簡単な形の同一もしくは近い読み方の音符に換えたものである。「証

(證)、「釈」、「担(擔)」、「庁(廳)」などである。

「姫」は「臣」が音符であり、「姫」の場合「臣」を音符として「キ」と音読させるには無理がある。然るに常用漢字表の標準的な読み方では音読「キ」の記載は無く、訓読「ひめ」のみが記載されている。「囿」もこの例であるが、音符としている「井」の「い」は訓読であるので特殊な音符置き換え例である。

一部分を削除した字体。

「糸」、「応」、「芸」、「県」、「声(聲)」、「虫(蟲)」、「缶」、「処」、「徳」、「歴」、「豊」、「類」などである。

別の漢字に置き換えた字体。

「欠」、「豊」、「糸」、「缶」、「芸」、「虫」、「体」、の例である。「糸(本来の音読ベキ、細い糸)」は「絲」の一部を削除した例として、「缶(本来の音読フ、素焼きの土器)」は「罐(音読カン)」の「藿」を削除した例として、「芸(本来の音読ウン、草名)」は「藝(音読ゲイ)」の「執」を削除した例として、「虫(本来の音読キ、まむし)」は「蟲」の一部を削除した例として挙げたが、本来は別の字である。「欠」は本来の音読はケンであり、「かける」の意味もあるので「缺」の代わりに使用されるようになった。「豊」は本来の音読はレイであり、儀式用の器の名である。字体が似ているので「豊」の代わりに使用されるようになった。「体(本来の音読ホン、劣るなどの意)」は本来は「體(音読タイ)」である。「体」は中国でも古くから「體」の俗字として使用されてきた。

おわりに

漢字は中国の文字である。中国語は原則「一語一音」であり、「孤立性言語」であるので(中国語は一つの語彙が一音節で完結する。「我」(一人称、わたし)は「wǒ」、「喝」(動詞、飲む)は「hē」。二音節以上の語彙

も多数あるが、助詞の類を除き一音節でなんら意味を持たないものはない。中国語は、日本語の用言の活用や英語の人称詞、動詞のように文章の状況によって語形が変化することもなく、また、日本語の所謂「てにをは」のような文章において単語の役割を決定するような助詞もない。単語が文章中で他の単語と関連しようとする働きは希薄である)、一語を一字で書き表すことのできる漢字はこの言語にとって非常に都合の良い文字である。その漢字が中国以外の地域においても長きにわたって使用された。

「漢字文化圏」の地域での漢字使用は、中国語による筆記ということである。漢字はそれを産み出した民族には便利な道具であるが、言葉の異なる民族が使用するとすれば不都合が生じることは必定である。朝鮮半島ではその民族の言語にあわせて「ハングル」が作られ、ベトナムでは「チュノム（字喃、漢字に酷似したベトナムで作られた文字。ベトナム式ローマ字に換わり廃止）」が作られた。これらの地域では漢字（中国語）の使用から離れたのである。通常は複音節で一語を構成し、膠着性言語である日本語においても中国語による筆記に限界があるのは当然である。しかし、前述した如く日本では現在なお漢字が使用されている。その理由として最も大きな要因は「訓読」にある。訓読は漢字を中国語としてとらえるのではなく日本語としてとらえているのである。漢字を日本語としてしまったのでこれから離れる理由が無くなったのである。

日本では、漢字、平仮名、片仮名、ローマ字を学校教育で学ばなければならない。漢字は常用漢字のほかに人名漢字を加えると 3000 字近くになり、非常用漢字で日常頻繁に使用するものを加えれば更に増加する。英語圏に居住する人々に比較すると圧倒的な量の文字を知らなければならない。「識字」という観点からも「漢字の簡略化」は必須である。中国においても 10 億をはるかに超える国民全員に識字させることは至難である。1949 年新中国成立後、標準語となる「普通話」を普及させるとともに、漢字も簡体字を正式な字体として採用した。上記の例を見ても大胆な簡略化のもの

もある。漢字の簡略化は日本においても中国においても非常に重要である。

漢字を簡略化することによって問題も生じた。まず、簡略化によってその漢字の所属が不透明になったものがある。たとえば「医」は本来「醫」であり、「西」の部首に属する。「声」は「耳」の部首に属する。「闘」は本来「鬥」に属し「鬥」は意符にも音符にもなっておらず形を整えるだけの要素でしかない。また、簡略化されてはいないが「舎」は本来「舍」であり、「舌」の部首に属する。前述の別の漢字に置き換える簡略化は、漢字本来の意味を損ねているので問題は大きいですが、現在その字体が定着してしまっているので、これらの漢字を本来の字体に改めるのは困難である（「舎」は筆画数が増加するのではないから改めるべきか）。筆画数がさほど増加しないのであれば「突」、「類」、「器」の「大」の部分は本来「犬」によるものであるから「突」、「類」、「器」に改めるべきではないか⁶⁾。同様に「氷」も本来の「冰」に改めるべきではないか（大修館書店 諸橋轍次著『大漢和辞典』には「氷」は収録されていない。後述の「卑」も収録されていない）。また、正字より筆画数が増えている「歩」、「涉」、「頻」（「歩」は「歩」のままである）、「卑」、「碑」なども「歩」、「涉」、「頻」、「卑」、「碑」に改めるべきではないか。

注

- 1) 平凡社 白川静著『漢字の世界1・第一章 文字原始 漢字の起源』参照
- 2) 甲骨文字、金文、大篆、小篆、隸書の各字体は、平凡社 白川静著『文字逍遙』参照
- 3) 吉川弘文館 世界の文字研究会編『世界の文字の図典』320頁参照
- 4) 吉川弘文館 世界の文字研究会編『世界の文字の図典』500-501頁参照
- 5) 吉川弘文館 世界の文字研究会編『世界の文字の図典』322頁参照
- 6) 平凡社 白川静著『漢字百話・X 漢字の問題』等に同様の指摘がある